

企画セッション

日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題～いつでもどこでもあなただけをめざして～（２）

【抄録】

Well-being を目指したサービスの実現には、個人の特性とそのときの状態と反応を多面的に捉えて個人差や個人内変動に対応できる状態推定手法と効果の評価手法が欠かせない。この課題について多様な専門家との議論するために企画セッションを提案してきている。昨年度の大会では、問題意識の共有、事例紹介のあと Well-being の定義と測り方、ヘルスケア実践に向けての活発な議論がなされた。その後、日本人間工学会関東支部で「心拍変動指標を用いたストレス評価の妥当性について～LF/HF はストレス指標と言えるのか？」と題した企画セッションを開催し、心拍変動指標変化の正しい解釈には呼吸に関する情報が必要であることを確認した。本セッションでは、フィールドでの低負担呼吸計測に焦点を当て、現状把握、事例の紹介、課題共有を行う。栗谷川幸代（PIE 研究部会幹事）より議論の経緯、特に呼吸計測の重要性、大須賀美恵子（PIE 研究部会部会長）より呼吸の低負担計測の現状と事例、林海斗（大阪工科大学院修了生）より長時間計測可能な研究用のウェアラブル呼吸計測デバイスの開発、鎌倉快之（大阪工大）よりカメラ映像を用いた呼吸計測の現状と事例について報告する。なお、大須賀の講演の中で会場参加できない研究者・開発者の事例を録画で紹介する予定である。これらの話題提供の後、会場の参加者を交えて、課題の共有、今後の方向性について議論する。